

新技術の積極的な導入による「にら」栽培における高品質・高単収・生産性向上の実現

○さくら市 笹沼俊介さん○

笹沼俊介さんは、平成31年に就農し、現在は母、雇用1名、特定技能外国人1名により、にら50aを栽培しています。

笹沼さんは、資材価格の高騰が進む中、積極的な規模拡大を図るよりも、限られた面積で最大の収量を得ることを目指し、就農開始時に新技術（ウォーターカーテンハウスとかん水設備）を導入しました。

ウォーターカーテンハウスの導入により、厳寒期でもハウス内の夜温が安定的に確保でき、日中の温度を抑えて管理することが可能となり、株を消耗させることなく肉厚で葉幅の広い高品質なにらを収穫できるようになりました。また、かん水設備の導入により、年間を通して根の活性を落とさずに水や肥料を供給することができ、定植翌年の12月まで高品質なにらを計画的に収穫することが可能となり、単収は栽培初年度から地域の平均を大きく上回り、令和5年度には6.5t/10aを達成し、県平均の2倍以上の実績を確保されています。

栽培初年度から高い単収を確保できた一方で、はかま取りや袋詰め等の出荷調整作業の負担が課題となっていたことから、はかま取りの省力化を図る水圧式にら洗浄そぐり機を導入し、調整作業に費やす時間を従来の2割程度まで削減し、削減分を栽培管理に投下することにより、更に単収が増加するようになりました。

このような新技術の導入により、にら栽培に好循環を生み出す取組が評価され、令和5年度「栃木県農業大賞」の芽吹き力部門で最高賞の栃木県知事賞を受賞されています。

このような新技術の導入により、にら栽培に好循環を生み出す取組が評価され、令和5年度「栃木県農業大賞」の芽吹き力部門で最高賞の栃木県知事賞を受賞されています。

今後は、収穫量が少なくなる8月～9月の供給力強化のために、夏にら生産拡大を図るとともに、更なる単収の向上に向けて試行錯誤していきたいと話されていました。



水圧式にら洗浄そぐり機

1 地域農業の未来図・地域計画の作成と今後の展開

- ・地域を次世代に引き継ぐために、地域計画に基づく課題解決のための定期的な話し合いを行います

○将来、あなたの農地は誰に引き継ぎますか？

これまで、地域のみなさんが守り続けてきた農地を、次の世代に着実に引き継いでいくためには、農作業がしやすく、労力や時間、生産コストを減らし、少ない担い手でも耕作できるように、農地の集約化を進めることが重要です。

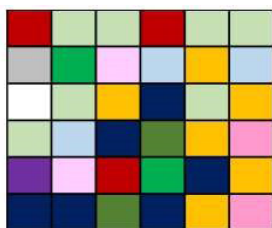
市町では地元での話し合いの場を設け、関係機関が一体となって10年後の農地利用の姿を描く「地域計画の策定」に取り組んでおり、3月には公表されることになります。

公表後も市町では計画の推進に向けて、定期的な話し合いが持たれることになっています。

協議の場で浮き彫りとなった地域の課題について、今後も地元が主体となり話し合いを継続して解決を図り、次世代に農地を引き継いでいきましょう。

[将来の農地利用（目標地図）]

現況地図

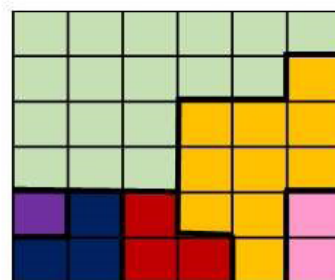


地域の話合い
農地の出し手
と
農地の受け手

定期的な話し合いで、目標地図をブラッシュアップ

将来の目標地図

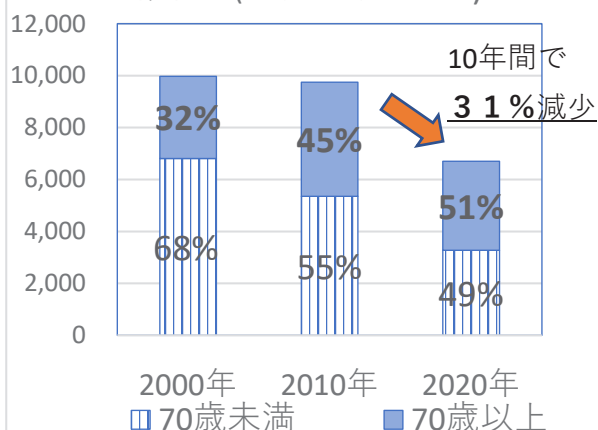
農業者の意向等を踏まえ話し合いを重ね、随時変更しながら徐々に完成度を高めていきましょう。



○あなたの住む地域の将来は、どんな方向へ？

- ・将来の担う人が確保されますか。
- ・今の担い手が協力して組織化するなど、継続して経営できるしくみを考えますか。
- ・それとも、地区外から担い手を受け入れる用意がありますか。

年齢階層別基幹的農業従事者の推移（塩谷南那須地方）



<参考データ>

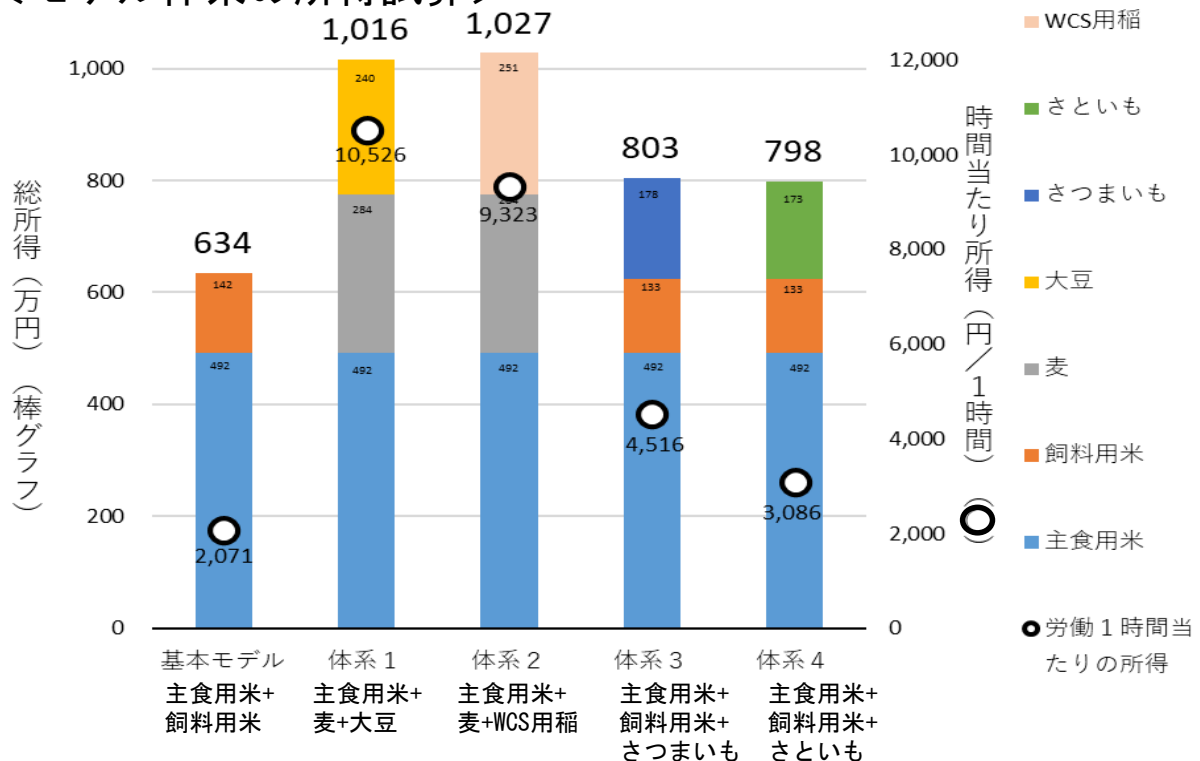
- ・2010年から2020年の10年間で、基幹的農業従事者が31%減少。
- ・70歳以上の高齢者の割合が45%→51%と過半数を超過。
- ・10年後は、担い手不足が深刻な事態になると想定される！

2 土地利用型経営の水田輪作モデル体系を提案します

塩谷南那須版水田輪作で経営改善！

○「水まわりの時間を減らしたい」「水田には水稻を栽培したい」
 「土地利用型園芸を導入し経営の多角化を図りたい」
 そんな希望を持つ方のため、輪作のモデル体系を作成しました！
 モデルを参考に、自らの経営にあった輪作体系を取り入れましょう！

<モデル体系の所得試算>



<労働時間の比較>

	年間 労働時間(h)	労働力	労働時間 平準化指標(※)
<基本モデル> 主食用米15ha+飼料用米15ha	6,645	家族労働3人+ 臨時雇用延べ160人	100
<体系1> 主食用米15ha+麦7.5ha+大豆7.5ha	4,763	家族労働3人+ 臨時雇用延べ40人	54
<体系2> 主食用米15ha+麦7.5ha+WCS用稲7.5ha	5,198	家族労働3人+ 臨時雇用延べ80人	72
<体系3> 主食用米15ha+飼料用米14ha+さつまいも1ha	7,166	家族労働3人+ 臨時雇用延べ170人	105
<体系4> 主食用米15ha+飼料用米14ha+さといも1ha	8,134	家族労働3人+ 臨時雇用延べ210人	106

※労働時間平準化指標：基本モデルを100として、数字が小さいほど労働時間のばらつきが少ない（＝平準化されている）
 旬別労働時間の標準偏差から算出

3 イネカメムシの発生に注意しましょう

イネカメムシの発生に注意！



【↑成虫】

【↓幼虫】

令和7年1月
塩谷南那須農業振興事務所

イネカメムシの発生が近年拡大しています。

令和6年は県南地域で、水稻に甚大な被害がでました。

イネカメムシが出穂期に稲を加害すると**不稔米**の発生が増加します。また、乳熟期に加害すると**基部斑点米**で**品質が低下**します。

出穂期

不稔で
収量低下

乳熟期

基部斑点米で
品質低下

従来の対策に加え、新たな対策が必要です

発生予察情報による適期防除

被害が発生していない地域でも、イネカメムシがいる可能性があります。県の予察情報を注視して防除に活かしましょう。

栃木県病害虫
発生予察情報

出穂期の防除をプラス！

不稔を防止するためには、通常の乳熟期の防除に加え、**出穂期の防除**が必要です。

出穂前2回草刈りは継続

従来の斑点米カメムシ防除の基本である「①出穂2～3週間前の草刈り＋②出穂期頃の草刈り」は、今までどおり行いましょう。



4 飼料用米作付けに堆肥を利用しましょう

「塩谷南那須産」 堆肥を使って みませんか？

家畜ふん堆肥は上手く使うと生産コストの削減が図れるだけでなく、環境負荷の軽減にも貢献することができます。

塩谷南那須地域における堆肥生産者マップを作成しましたので、ぜひ「塩谷南那須産」の堆肥を活用してください！



化成肥料の削減に取り組んでみましょう！

堆肥を使うとどのくらい化成肥料削減になるの？

① 飼料用米栽培に鶏ふん堆肥を活用した事例

(10a 当たり)

施肥量	収穫量(粗玄米重量)
発酵鶏ふん 150kg 飼料米専用211(20(8)-10-10) 75kg	704kg
オール14(14-14-14) 80kg NK707(17-0-17) 20kg	690kg

化成肥料を
25kg削減

※「令和3(2021)年度 現地技術実証展示ほ 成果情報」から抜粋

② 大豆栽培に豚ふんペレット堆肥を活用した事例

(10a 当たり)

施用量	収量	肥料費
豚ふんペレット堆肥 280kg 化成肥料 20kg	229.6kg	7,640 円
化成肥料 40kg	216.0kg	10,240 円

化成肥料を20kg削減、2,600円/10aの肥料費削減

※「令和5(2023)年度 とちぎグリーン農業推進実証展示ほ 成果情報」から抜粋



豚ふんペレット堆肥

- ・塩谷南那須地域では水田活用による所得向上のための「さつまいも」「さといも」の作付け推進を行っています

1 塩谷南那須地域さつまいも産地躍進戦略の概要

塩谷南那須地域『「さつまいも」産地躍進戦略』の概要について

令和5年12月27日
塩谷南那須地域「さつまいも」戦略会議

基本的な考え方

当地域の風土に適する栽培技術を早急に確立し、地元実需者に対する高品質な加工原料の供給に加え6次化や青果用の出荷等による販路拡大により、生産者の収益向上を図る。また、新たな商品開発やイベント等の開催を通じて「さつまいも」を新たな特産品として定着させる。

【キャッチフレーズ】～目指せ100ha！求められる「さつまいも産地」への進化～

5年後の目指す姿と数値目標

- 【生産】高収益な「さつまいも」生産の実現
(目標) 加工歩留まり30% (直近値: 約20%)、単収2.5 t/10a (直近値: 約1.2 t)、栽培面積100ha (直近値: 約56ha)
- 【担い手】産地を担う多様な人材が数多く活躍
(目標) 10ha以上の大規模経営体5戸 (直近値: 1戸)
- 【地域振興】地域に人を呼び込む、新たな特産品目
(目標) 新たな市町認定ブランド商品の開発6件 (直近値: 1件)

具体的な取組(目指す姿を踏まえた今後5年間の取組内容)

《生産戦略》～高収益な「さつまいも」生産の実現～

- 戦略1：高品質・高単収・高単価の実現
- ・当地域の気候・土壌条件に適した高品質・多収生産技術体系の確立
 - ・6次化や貯蔵施設を利用した長期出荷、青果向け出荷等による販売単価の向上
- 戦略2：定植苗の安定確保
- ・品質の高い定植苗生産技術 (自家増殖技術) の確立
 - ・産地内で定植苗を供給できる体制の構築

《担い手戦略》～産地を担う多様な人材の確保・育成～

戦略3：新規栽培者の確保及び大規模経営体の育成

- ・作付け推進対象者の明確化と効果的な情報の発信
- ・機械化一貫体系の導入による規模拡大

戦略4：労働力確保に向けた仕組み作り

- ・多様な人材 (農福連携、子育て世代、学生等) の活用
- ・機械の共同利用や作業委託の取組拡大による分業化の促進

《地域振興戦略》～「さつまいも」の魅力を地域内外に広く発信～

戦略5：魅力的な商品ラインナップの拡充

- ・地元菓子店、飲食店等との連携による新たな商品開発の推進
- ・道の駅や直売所等を核とした販売チャネルの拡大

戦略6：さつまいもの魅力を知ってもらう「さつまいも体験」、 “さつまいも育” の拡充

- ・地元観光資源と収穫・試食体験等を結びつけた新たなサービスの提供による交流人口の拡大
- ・栽培体験を通じてた子供達に対する食育活動の拡大

趣旨

塩谷南那須地域のさつまいも産地の更なる発展に向けて、5年後の目指す姿と実現に向けた方針策を明らかにし、生産者、実需者、農業者、行政機関が一体となって取組を推進する。

【策定主体：塩谷南那須地域「さつまいも」戦略会議】

「さつまいも」を巡る情勢

1. 国内の情勢

- 【産地振興の動向】
- ・栽培面積の減少や単収の低下により全国的に収獲量が減少傾向 (5年間で約1割減)
 - ・茨城県の産地の拡大、北海道や東北における新産地形成の進展 (北海道：JAあさひかわ約30ha)
- ⇒他産地が戦略的に拡大を図る中、当産地においても将来の目指す姿を見定め、関係者一丸の取組推進が必要

【消費・需要の動向】

- ・近年の焼き芋、干し芋人気、専門店の増加などの影響で、実需者からの需要が拡大中
- ・2017年頃からさつまいも関連のイベントが増加
- ⇒新商品の開発やPRイベント等により、加工利用の用途が広い特性を生かして地域活性化のツールとして活用

2. 当産地の情勢

【栽培面積・担い手】

- ・水田転作の推進により、5年で栽培面積が急拡大 (R4面積：さつまいも32ha、ねぎ26ha、えだまめ18ha)
- ・耕種農家へ導入が進んだ、戸当りの栽培面積は小規模
- ⇒新たな栽培者の確保に加え、お試し生産者への栽培定着と規模拡大を図ることが必要

【生産】

- ・平均単収は1.2 t/10aで、全国平均より1 t程度低い (要因：排水不良、苗不足、管理不足等)
- ・全国的な「サツマイモ基腐病」のまん延等の影響で、定植苗の供給が不安定 (9割以上を他県から購入)
- ⇒移れる「さつまいも」経営の実現に向けて、地域に最適な栽培技術の確立が急務

【販売】

- ・主に地元の食品加工企業に干し芋原料として販売 (和みの社：加工量600 t/年 (県内産約5割使用))
- (仕 関：加工量800 t/年 (県内産約3割使用))
- ・他県産に比べ加工歩留まりが低いことが大きな課題
- ⇒需要創出力の高い実需者と連携できる強みを生かし、品質向上とともに、生産と実需のWin-winな関係を構築

【その他】

- ・労働力確保、被害対策、食育推進等への対応も課題

《R4年度さつまいも生産状況》

	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	収獲量 (t)
鹿見島	10,000 (83)	2,100 (91)	210,000 (75)
茨 城	7,500 (111)	2,590 (101)	194,300 (112)
千葉県	3,610 (88)	2,440 (101)	88,800 (88)
宮 崎	3,080 (85)	2,530 (99)	77,900 (86)
全 国	32,300 (90)	2,200 (99)	710,700 (88)

※ 0.4R4/100 ☆栃木県の面積は約90%

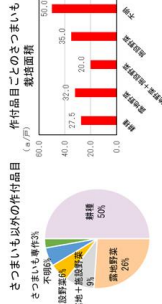
《用途別国内需要》



《管内の生産組織の状況》

組織名	戸数 (戸)	面積 (ha)
矢張さつまいも組合	7	16.2
みなす南農協さつまいも	4	1.0
さくらさつまいも部会	34	15.3
しおや農地野菜研究会	2	2.6
農&S株式会社	1	0.5
計	48	35.6

《さつまいも生産者の状況》



2 南那須地域さといも産地ビジョン

～南那須地域『園芸』ルネッサンスプロジェクト (Vol.1) 『さといも』産地ビジョン ～幻のさといも『善光寺』で活気あふれる産地づくり～

令和6年10月21日 南那須地域ルネッサンスプロジェクトチーム

基本的な考え方

食味に優れ、市場評価が高い幻のさといも『善光寺』のブランド化を核として、新規栽培者の確保や生産拡大、農業所得の向上を図るとともに、地域住民・飲食店と連携した体験・交流等の機会を創出し、南那須地域の活性化を目指す。

5年後の目指す姿

幻のさといも『善光寺』で活気あふれる産地

- 『善光寺』栽培面積：10ha (直近値約2ha)
- 10a当たりの販売金額：40万円 (直近値約35万円)
- 市町認定ブランド商品：2件 (直近値0件)

具体的な取組 (目指す姿を踏まえた今後5年間の取組内容)

1 品種の知名度向上

- セリングポイントの確立と販売促進の強化
 - 善光寺 (寺) との結びつきを強調
 - 出荷資材等の見直し
- 県内、県外産地との連携
 - 県内他産地との生産振興、販売促進、PR活動等での連携
 - 県外産地 (長野県さといも善光寺里帰りを進める会) との交流

2 生産拡大

- 新規栽培者の確保
 - 定年帰農、直売所出荷者、移住者等への作付け推進
 - 水田転換農産品目として耕種農家への作付け推進
- 省力・軽労化の促進
 - 機械化一貫体系の導入支援
 - 機械の共同利用や作業受委託の取組促進
- 親芋供給体制の整備
 - 親芋生産者の確保、優良親芋の確保

3 地域活性化

- 地元飲食店での提供
 - さといも『善光寺』メニューブフェアの開催
- 高校と連携した商品開発
- 地元住民との交流促進
 - 市民農園、小中学校での栽培体験 (食育)
 - 学校給食への食材提供
- 都市農村交流の活性化
 - グリーンツーリズムでの栽培体験
 - さといもオナー制度の創出
- その他
 - 秋の恒例行事「芋煮会」の定着
 - ふるさと納税返礼品
 - 市町認定ブランド品の創出

なぜ「さといも」?

【人】

- 30年以上の歴史がある「JAなす南さといも郡会」

【栽培】

- 水田での栽培に適している
- 鳥獣被害がない
- 初期投資が少なく、管理作業の手間が少ない

【需要】

- 指定野菜であり、和食には欠かせない食材

水田の有効活用、農業者の所得向上を図る組合せ品目の1つとしてポテンシャルが高い

「さといも」を巡る情勢

1 全国のさといもの状況について

【収穫量・栽培面積】

- 収穫量は10年間で15%程度減少。栽培面積の減少率はだいたい、スミートコートに次いでワースト3
- 出荷量の減少により市場価格は上昇傾向で推移。通年で需要があり、特に年末年始の需要が高い (おせち料理等)

【品種・ブランド化】

- ちば丸 (千葉)、伊予美人 (愛媛)、二子さといも (岩手)

⇒全国的に産地の縮小が進む中、主産県でオリジナル品種の育成やブランド化の取組を実施。収穫量5位の県において、産地活性化の取組が必要

2 当地域の状況について

【JAなす南さといも郡会】

- 5年間で郡会員数が約3倍、栽培面積が約2倍に増加
- 平成25年頃、さといも『善光寺』を導入。現在は栽培面積の5割を占め、市場評価が高い (箱単価：既存品種+100円)

⇒産地が順調に拡大している一方、郡会員の高齢化が進んでいるため、更なる発展のためには、新規栽培者の確保が必要

さといも『善光寺』の由来

かつて長野県の「善光寺」一帯で栽培されていたといわれており、粘りが強くねっとりとした食感が際立つ里芋です。現在では栃木県と長野県の限られた地域でのみ栽培されています。

一説には、戦国時代によし子孫伝一が行が栃木県にもたらしたといわれています (諸説あり)

ふっくらとしたさといも『善光寺』

戦国時代、関東平野を統一しようとした徳川家康は、信濃の善光寺に参詣し、その地で「善光寺」の名を冠した里芋を栽培し、あちこちから「善光寺」の里芋が生み出されたとされています。

とちぎグリーン農業の推進

- ・「みどり認定」を受けて環境負荷低減活動に取り組みましょう

環境にやさしい農業に取り組んで
「みどり認定」を受けませんか？
～環境にやさしい農業への取組を応援します～

「みどり認定」とは？

・令和4年に制定された「みどりの食料システム法」に基づく環境負荷低減事業活動の計画を認定する制度の通称です。

認定となる「環境にやさしい取組」とは？

☐土づくりと化学肥料、化学農薬の使用量削減

- ・堆肥の施用
- ・土壌診断に基づく適正施肥等
- ・太陽熱消毒
- ・天敵の利用
- ・防虫ネットの利用

※土壌診断の写しをご用意ください

☐温室効果ガスの排出量の削減

- ・省エネ機器の利用
- ・水稻の中干し期間の延長
- ・水田の秋耕
- ・ウォーターカーテンの利用

☐その他

- ・くん炭等の施用
- ・生分解性資材の利用
- ・生物多様性の保全

グループ申請について

農協の生産部会など同じ品目や取組を行う生産者が、1つの計画を作成し、グループ（団体）として申請し、認定を受けることが可能です。

みどり認定の優遇措置

主に3つの支援が受けられます。

- ☐計画に従って化学肥料・化学農薬の使用低減に必要な設備等を導入した場合に所得税・法人税が優遇されます。
- ☐農林水産省の補助金採択で優遇されます。
- ☐日本政策金融公庫の無利子融資等の貸付けを受けられます。



申請様式はこちら
栃木県みどり認定HP

問い合わせ先
塩谷南那須農業振興事務所
経営普及部
Tel：0287-43-2318

認定農業者紹介

たくさんの方に選んでもらえるような良い牛を作りたい。

矢板市 八木澤 佐智子さん

矢板市土屋の八木澤佐智子さんは、平成15年に大規模肉用牛繁殖経営を実践する農家に嫁ぎ、子育てが一段落した平成29年から本格的に農業に携わるようになりました。同年、経営主である義父と共同で認定農業者になり、令和6年には女性農業士の認定を受け、地域の女性農業者の代表として活躍しています。

現在は、繁殖雌牛80頭、水稻24.2haを経営し、主に子牛育成管理と経営管理を担当しています。令和3年に牛舎内に監視カメラを設置し、繁殖雌牛の発情、分娩兆候、子牛の様子を監視することで、分娩や飼養管理の省力化を図っています。

労働力は、義父、義母と佐智子さんの3名で平成29年に家族経営協定を締結しています。常時雇用を1名導入するなど就労環境の改善に取り組み、子供の行事への参加や休日の取得など、ゆとりある農業経営の実践を進めています。

現在、ご主人は外部に勤務していますが、将来的には夫婦で一緒に経営していくことを考え、

農業技術や経営管理知識を習得に意欲的であり、日々農場の牛に寄り添い、妊娠中の雌牛の管理や生まれた子牛を立派に育てて出荷していくことを楽しみにしているようです。また、JAしおのや女性会フレッシュミズや女性農業士の活動では、地域の子供達や地元の高校生と食育などをおして農業の大切さを伝えられることが喜びであり、今後も情報発信していきたいと話して下さいました。



地域や仲間とともに育む土地利用型農業の取り組み

さくら市 齋藤芳久さん

さくら市の齋藤芳久さんは、妻と2名による家族経営で、水稻12.0ha、麦1.3ha、さつまいも1.2ha、ばれいしょ0.3haと水田を活用した土地利用型の複合経営を行っています。

齋藤さんは、製造業に従事しながら、兼業で水

稲を栽培していましたが、4年前に専業農家として就農を決意しました。

主食用米は、消費者の反応を参考にしながら、複数の品種を栽培しており、積極的に新品種の栽培に挑戦しています。酒米については、品質向上にこだわり、土壌診断結果に基づき、肥培管理を工夫されています。

さつまいもは、地元加工企業へ安定した供給を図るため、地域でいち早く、最新の肥料・農薬複合散布機を導入し、自らの生産効率を高めるとともに、新規栽培者の負担軽減を図るため、共同利用も行っています。

また、グリーンボランティア員として、地元小学生に対する食育活動にも力を入れており、さつまいもの栽培から収穫体験を指導しています。

担い手の高齢化が進む中、これからも若い世代の人たちが農業に興味を持ち、取り組みやすい環境づくりを進めるため、地域内外の仲間と共に、様々なことに挑戦していきたいと熱く語ってくれました。



スマート農業実践での労力軽減とゆとりある農業経営を目指して！

那須烏山市 駒場由香里さん

那須烏山市大桶の駒場さんは、平成23年に経営主となるとともに、本人と父母との3者により家族経営協定を再締結するなどライフワークバランスをとりながら、水稻・麦・大豆での土地利用型経営に取り組んでいます。

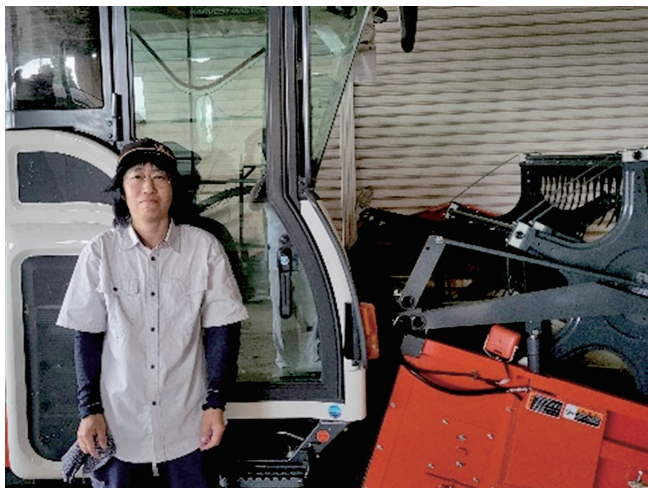
現在の経営概要は、水稻は400a（うち種子生産：70a）、六条大麦は300a（うち種子生産：150a）、大豆250a（うち種子生産50a）と一般用と種子生産、特定作業受託（300a）となっています。

作業効率の向上を図るため、ドローンを導入し営農支援システムも活用することで、適期防除・施肥作業を行う体制を確立し、省力化も実現しました。

コンバインもリース契約とし、導入経費や修繕費の低減を図るとともに、営農支援システムの併用とリモートセンシング技術と連動させた圃場管理、成育状況等を見える化するなど、スマート農

業を実践することで、情報の共有を図りながら地域営農の支援もできると考えているとのことでした。

スマート農業技術の導入・実践は短時間でも効率的な作業が可能となるので、適正管理による高品質な農産物生産とゆとりある農業経営を実践していきたいと話していました。



塩谷町「スプレーギク」産地の高品質・生産性向上の実現に向けて

塩谷町 代田 裕久さん

代田さんは、30歳の時に就農後、31歳で事業主となり、現在は父、母、妻、雇用1名の5名で、スプレーギク64aを周年栽培しています。

ギクの最大の需要期であるお盆や9月の彼岸は、高温の影響による品質の低下や開花遅延を防ぐため、土づくりや遮光カーテンの利用による対策を行い、高品質で安定した出荷を行っています。

冬期の11月～2月は、特に品質低下が課題となるため、炭酸ガスや補光を使用し、更なる単収の向上に向けて試行錯誤していきたいと話していました。

このような、産地全体に好循環を生み出す栽培技術や経営が評価され、令和2(2020)年度に農業士に認定されました。

また、平成19年度には、「栃木県花き立毛共進会 最優秀賞 農林水産大臣賞」令和6年度には「関東東海花の展覧会 日本花き卸売市場協会会長賞」を受賞しています。

今後は、さらなる経営拡大を目指し、雇用環境の整備、施設面積拡大、法人化を目指すと同時に、農業士として10年後を見据えた産地全体の維持・拡大を目指していきたいと話していました。



令和6(2024)年度認定 新農業士・名誉農業士の紹介

〈新農業士〉

◇和氣 輝さん(矢板市) 経営類型：酪農+和牛繁殖

昨今の飼料高騰に対するコスト削減のため、WCS 用稲やイタリアンライグラス、飼料用ヒエ、デントコーンなどの飼料作物を自家生産しています。また、近隣の農家と耕畜連携を積極的に行って農地保全に取り組んでいます。



和氣 輝さん

◇富田 裕司さん(那須烏山市) 経営類型： 水稻+麦+大豆+そば

耕作放棄地の解消に取り組むとともに、中山間地域の狭小な農地を畦畔除去などで工夫して大規模化を図っています。J G A Pに取り組み、安全安心な栽培管理を実践しています。



富田 裕司さん

◇小川 允士さん(那須烏山市) 経営類型： 梨+水稻

新品種、優良品種の導入による長期収穫・出荷を目指して創意工夫をしています。ほ場単位での土壌診断を実施してきめ細やかな施肥管理により、収量向上を図っています。



小川 允士さん

〈新名誉農業士〉

◇田代 修一さん パートナー：道子さん(さくら市)

経営類型：水稻+麦+大豆+そば+ねぎ 認定：平成 18 年度

県農業大学校生の受入に協力する等農業後継者育成に尽力されました。また、さくら市認定農業者協議会長を務め、さくら市の農業発展に貢献されました。



田代 修一さん

◇荒井 喜代子さん パートナー：芳雄さん(那須烏山市)

経営類型：水稻+麦 認定：平成 16 年度

少量多品目の野菜作りを行う傍ら地域農業の発展のために尽力されました。南那須観光いちご園の代表として施設の運営や経営に携わった他、農業委員や土地利用対策審議会委員を務め、地域で豊富な経験を活かした活動を行いました。



荒井 喜代子さん

◇渡辺 和美さん パートナー：肇さん(塩谷町)

経営類型：水稻+施設・露地野菜 認定：平成 15 年度

地元直売所や農村レストランの運営に参画し、地域活性化に貢献されました。また、農業委員や農協理事を務め、女性の視点を農政に届けました。都市農村交流にも力を入れ、地域の仲間達と農村体験受入に協力し、塩谷町の農業の魅力発信に尽力されました。



渡辺 和美さん

◇佐藤 永倫さん パートナー：美千代さん(高根沢町)

経営類型：水稻+麦+大豆+そば 認定：平成 16 年度

米・麦・大豆・そばの輪作体系を実践し、基本の栽培管理を忠実に実行することで、高品質な農産物の生産と単収向上を実現しました。また、新規栽培者の作物生育状況を常に気にかけて助言指導する等、地域の担い手育成に尽力されました。



佐藤永倫さん・
美千代さん

◇益子 幸江さん パートナー：順一さん(那珂川町)

経営類型：水稻+施設野菜 認定：平成 16 年度

農村生活研究グループ等の組織活動を通して後進の育成に尽力されました。また、農業委員としてもご活躍され、地域農政に貢献されました。地元の農産加工施設では、地域住民らと加工品の製造を行い、農産加工を通じて地域農業の活性化に貢献されました。

各種コンクール等結果

今年度のコンクール等の結果は下記のとおりでした。入賞おめでとうございます。(敬称略)

○令和6(2024)年度栃木県農業大賞

管内受賞者

【農業経営の部】

特別賞(栃木県農業協同組合中央会長賞)

有限会社アグリサービス小林(高根沢町)

【農村活性化の部】栃木県知事賞

那珂川町中山間地域活性化協議会(那珂川町)

【芽吹き力賞】

特別賞(栃木県農業協同組合中央会長賞)

斎藤巧稔・斎藤アルマ(塩谷町)

○2024年(第52回)毎日農業記録賞

【一般部門】入選

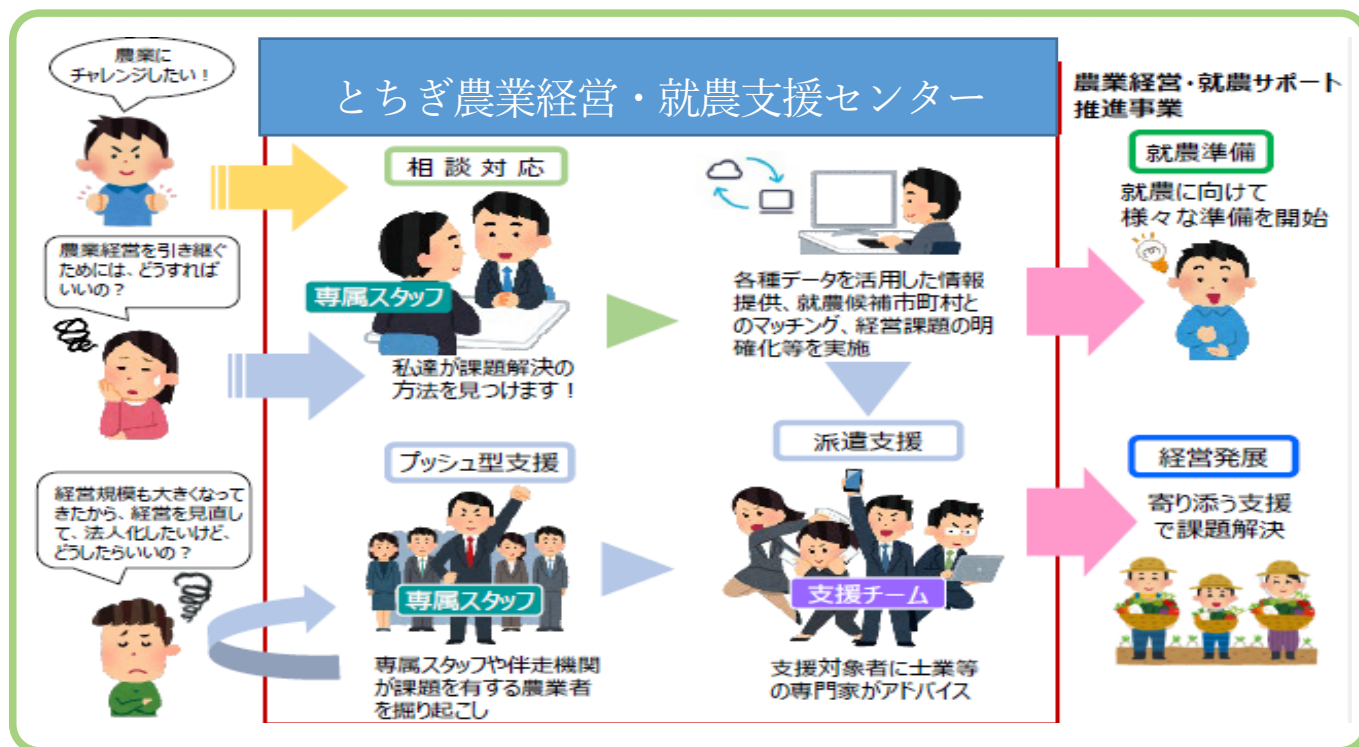
渡辺和美(塩谷町)「第二の人生に乾杯!!!」

塩谷南那須地区認定農業者連絡協議会等の動き

塩谷南那須地区認定農業者連絡協議会は、令和6年度課題解決研修を2回(スマート農業(8月)・経営継承(11月))実施しました。

令和7(2025)年3月24日(月)に塩谷庁舎401会議室において塩谷南那須地区認定農業者連絡協議会第2回定期総代会を開催しました。

農業者が抱える課題の相談窓口(相談は無料)



専門家(税理士・司法書士・社会保険労務士等に相談希望する方は農業振興事務所又は農協にお問い合わせください。

○問い合わせ先: 塩谷南那須農業振興事務所経営普及部経営指導課 (Tel 0287-43-2318)

塩谷谷農業協同組合営農経済部営農企画課 (Tel 028-681-7554)

那須南農業協同組合営農部営農指導課 (Tel 0287-96-6170)